

フェアワイルドと有機認証の監査

非木材林産物の持続可能な採集、公平な利益の分配、そして付加価値をつけることによる地元コミュニティへの便益の提供を推進するため、私たち AERF は、2015 年よりフェアワイルドと有機認証を導入しています。これらの認証は、認証を受けてから 1 年間有効であり、毎年更新する必要があるため、毎年、産物の収穫と搬出が行われる時期にルールを守っているかの監査が行われます。今年も、その監査が二つの審査機関により、それぞれ 4 月と 6 月に実施されました。また、この他に、加工処理過程の認証についても検査がありました。これらの認証によりセイタカミロバランの粉末を生産するまでの一連の工程すべてが外部機関により認証され、国際的な市場へのアクセスが可能になります。今後、地元コミュニティが非木材林産物の採集と加工処理から受け取る収入が飛躍的に増加することが期待されます。フェアワイルド認証及び有機認証の監査にかかる費用は、それぞれ、Pukka Herbs 社とダイキンにより負担いただいています。すでに、採集と加工に関する有機認証の証書は受領し、フェアワイルド認証の証書も 9 月に受領する予定です。

炭素蓄積量の推定のための能力開発

熱帯雨林がもたらす重要な生態系サービスの一つが炭素の吸収と貯蔵です。AERF は、保全契約を結んでいるコミュニティ林で、2012 年から炭素貯蔵量の推定のための調査を実施しています。今期、AERF の研究員の指導の下、AERF の新しい調査チームが 2 つのサイトで炭素貯蔵量の推定を行い、より広範囲の森林を対象とした同様の調査に向けた AERF 内の人材育成を行いました。対象地は AERF が 2009 年から保全契約を結んでいるアンバヴァリ村とカサル・コルヴァン村で、トレーニングに加え、森林の成長の理解と、伐採等のモニタリングも目的でした。どの種類の木が最も炭素貯蔵の面で潜在能力が高いかの理解にも役立ちます。調査の結果、一ヘクタールあたり、最大 65 トンの炭素を貯蔵していることがわかりました。



調査の様子

森林再生

6 月、地元コミュニティと協力して、自生種 31 種からなる 617 本の苗をサンガメシュワの 5 つの場所に植えました。対象地は、森林再生の必要性和、保全契約の対象林の周辺の緩衝地帯形成

の必要性から決めました。植えられた苗には、放牧牛から守るため、ネットで覆いをかけました。



神聖な森の荒廃地を森林再生する様子

コミュニティ・ミーティング

4つの村で、地元コミュニティ及び地元リーダーと、保全契約に関する様々な決定に向け、前期までの話し合いをフォローアップするためのミーティングを行いました。

地元コミュニティメンバーから提供された保全契約の対象となる森林に関する情報に基づき、森林面積や保全の価値の理解のため、AERF チームが簡易な森林調査を行いました。4つの村が保全契約に署名する可能性は高く、署名した場合、約 240 ヘクタールの森林が保全の対象となります。



対象地でのコミュニティ・ミーティングの様子



森林の様子

保全契約

多くの村々への働きかけの結果、このプロジェクトを開始して以降の初めての保全契約をウジャオン村と締結することができました。保全の対象となる森林は、樹齢の高い木がたくさんある約 10 ヘクタールの森で、フェアワイルド認証の対象地でもある村の神聖な森の緩衝地帯として機能し、ムユウジュやウパスノキといった希少樹種の保全に重要な役割を果たします。



保全契約に署名する様子

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。